

地本業務ニュース

JR 東海 労・静岡 地方本部

NO.8 2014年12月29日 発行者：JR 東海 静岡地方本部 山本 繁明

申4号「興津～由比間の土砂崩壊に関する 申し入れ」について業務委員会を開催！！

静岡地本は11月25日、台風18号の影響による興津～由比間の土砂崩壊に関する申し入れ「申4号」について業務委員会を開催しました。会社の回答と幹事間の議論は以下の通りです。

1. 災害の状況について明らかにすること。

【回答】台風18号の影響により東海道本線の由比～興津間では、幅約60mのり面の長さ約100mの斜面が崩れ、大量の土砂が線路内に流入したことにより元からあったコンクリートの土留め擁壁も倒壊し、それに伴い電力柱や閉そく信号機が倒壊し、架線やケーブルが垂下断線するなど重大な被害を受けるに至った。

2. 開通の見込みについて明らかにすること。

【回答】平成26年10月16日始発から復旧した。復旧の大きな流れは、まずは線路内に流入した土砂や樹木の撤去作業を行い、次に土砂の流入を防ぐ策としてH型鋼を打ち込み仮の土留柵を作成。その後電柱、レール、枕木、道床等の復旧を行ったのち、信号機、架線等の復旧を行った。

3. 再発防止について明らかにすること。

【回答】当該箇所については、地権者・県などの関係箇所と調整を行い、斜面をコンクリートで覆うなどの対策により再発防止を考えている。

4. 電力・通信設備のバックアップ対策を明らかにすること。

【回答】災害予備品の適切な管理により対処している。設備については二重化、迂回などによりバックアップ可能な設備もある。

5. 代替輸送に対する考え方を明らかにすること。

【回答】10月8日水曜日からは、富士駅～新富士駅間のシャトルバスの運行、及び東海道新幹線新富士駅から静岡駅間の代行輸送を開始。10月8日の朝の静岡地区のこだま乗車率が200%を超えたこともあり、平

日の輸送力を確保するため、翌10月9日木曜日から、三島駅から静岡駅の回送列車をこだま719号として暫定的に三島から静岡間で営業運転した。10月10日金曜日、不通区間の一部、富士駅から由比駅間が運転再開。10月11日土曜日、蒲原駅から興津駅間のバス代行輸送が開始。10月16日木曜日始発から全線で運転再開。

6. 新幹線による他経路輸送について、旅客への説明方を明らかにすること。

【回答】東海道新幹線による代行輸送については、10月8日水曜日の実施日の前日に各職場に対するお客様案内文を送付すると共に、新富士から富士間の代行シャトルバス対応者用も周知した。具体的には由比～興津間を含む定期券、回数券及び10月5日以前に購入した同区間を含む乗車券を提示すれば下記の条件を認める案内を行った。富士から新富士の代行シャトルバス、新富士から静岡の新幹線乗車の可否は、お持ちの乗車券類を確認のうえ新富士駅改札、静岡駅新幹線改札で代行輸送票を発行しご乗車いただいた。なお富士～新富士間のシャトルバスについても乗車券類を確認のうえご乗車いただいた。新幹線は通常の特急券所持の旅客への座席提供が優先であることから、原則デッキまたは通路にご乗車いただくこととした。

7. 通勤に関する事項

① 新幹線特急券購入の長期間にわたる本人の立て替えは負担が大きくなるので、新幹線代用証を発行すること。通勤以外に職場へ出てくる用事などにも発行すること。

【回答】10月8日から所定通勤経路において、由比～興津間を通過して通勤している社員に対し、自由席特急券代用証の交付を行った。

② 新富士駅から富士駅・富士運輸区へは、タクシー手配をすること。

【回答】通常に通勤手段としてタクシーを利用することを前提とする考えはない。

③ 列車本数の減や道路状況により出勤時刻に間に合わなかった場合は、通勤災害として扱うこと。

【回答】個別の事象については社員にも事情を確認のうえ対応する。

④ 今回の事態を教訓とし、遠距離通勤を解消すること。

【回答】そのような考えはない。

組合：③について改めて説明を求める。

会社：今後も計画的に経験を踏まえた対策をしていく。

組合：①について、どのようにして状況がわかったのか？

会社：落石検知機で確認した。

組合：何時何分に検知機が動作したのか？

会社：始発から止めていたので列車はいなかった。

組合：今回、私たちの申し入れが活かされている。評価している。

会社：ありがとうございます。

組合：職場によって前泊出勤の対応方に違いがあった。手当に関する
ことなので調査してほしい。

会社：職場内の施設で宿泊することが原則である。会社の指示であれば手当を出す。今後適切に対応するように指導していく。

以上